

県、復旧対応に712億円

台風19号補正予算案提出へ

県は22日の部局長会議で、総額622億5700万円の一般会計補正予算案を28日開会の県会11月定例会に提出すると決めた。このうち台風19号災害への対応に615億6500万円を計上。災害関連は2特別会計の補正分を合わせると計712億1400万円となる。道路や河川、県有施設の本格復旧に向けた経費が多くを占めるほか、中小企業や農林業者の復旧への支援

などを進める。心身の不調を訴える被災者への対応も図る。

【関連記事2・4・9面】一般会計の補正額は過去10年間で最大。補正後の本年度一般会計総額9637億5100万円も同時期(11月補正時点)で最大となる。

ケージ」に沿い、中小企業の施設や設備の復旧を「グループ補助金」で支援、商店街の施設復旧も補助する。農業では農地、農業施設、農業用機械などの復旧を支援する。

主な災害関連事業では、中小企業や農林業者への支援に152億6千万円を計上。政府が7日に決めた「対策パツ

被災者の生活支援には2632万円を盛り。ストレスなどで心身の不調を訴える被災者に対応する専門家を被災市町村に派遣。「県生活支援ささえあいセンター(仮称)」を新設し、市町村の生活相談

対応に助言する担当者を置く。

道路や河川、県有施設の本格復旧に向け559億2700万円を支出。県有施設では、千曲川の堤防決壊などで浸水被害に遭った下水道終末処理場のクリーンピア千曲や、県総合リハビリテーションセンターの復旧に充てる。同センターは浸水した磁気共鳴画像装置(MRI)など高額医療機器も購入した上で、早ければ来年初夏ごろの全面復旧を目指す。

クリーンピア千曲の復旧などで、来年度以降の支出をあらかじめ確保する債務負担行為として297億9千万円を

設定する。

県は10月以降、台風対応で3回にわたり計139億8700万円(債務負担行為を除く)を追加する補正予算の専決処分をしており、県会に報告する。11月補正を合わせると、台風関連で852億円余を確保することになる。

阿部守一知事は記者会見で「極めて大きな規模の補正であり、台風19号災害がいかに多くの被害をもたらしたかの裏返しだ」とした上で「災害対応に全力で取り組む一方、健全な県財政も確保できるよりに取り組む」と述べた。

県内台風被害2464億円に

県は22日、台風19号による県内の被害総額が21日時点の把握分で2464億6100万円に達したと明らかにした。7日時点の前回よりも約146億1100万円増加。調査が進んだ農業関係が357億3000万円増の588億7200万円に膨らみ、全体を押し上げた。

農業関係はリンゴ畑や水田への土砂流入、取水施設「頭首工」が流されるなどの農地や施設被害が328億2100万円増の542億2600万円。果樹農地の土砂調査が完了し、5センチ以上の堆積は長野市や上高井郡小布施町など北信6市町で計8100トンとなった。農作物や樹体、生産施設の被害は28億7200万円増の計44億8600万円。それぞれ92億8千万円と

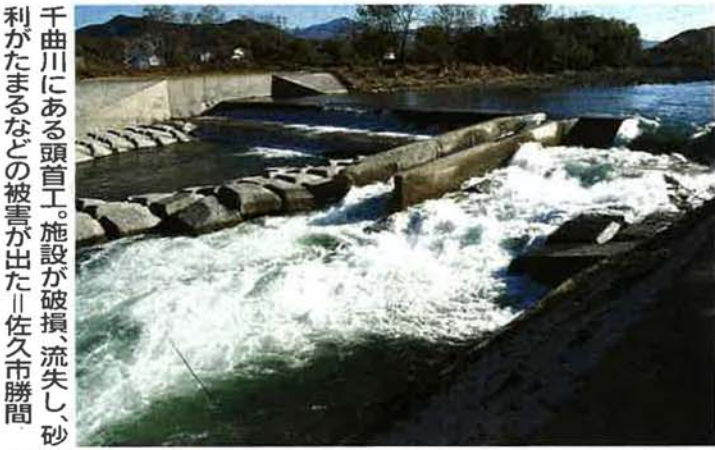
応急措置からニーズ変化

県は22日発表した補正予算案に、台風19号災害関連で計712億円余を計上。被災から1カ月半がたとうとする中、応急措置が中心だった対応は、被災者の心のケア、マイホームの再建や、中小事業者の再建など中長期的な視点に立った取り組みに移りつつある。被災者や事業者の局面的変化に沿った支援が求められる。【一面参照】

「被災者のニーズをしっかりと組み「暮らし・生業」再建本りくみ取る」「被災地で経営部」が22日、県庁で開いた初や営業の意欲を失うことのないよう支援する。台風災害5チームの代表職員は口々に意気込みを語った。

台風災害 県補正予算案

住宅再建・心のケア 配慮



千曲川にある頭首工。施設が破損、流失し、砂利がたまるなどの被害が出た。佐久市勝間

県の11月補正予算案に計上する 台風19号災害への主な対応(円)

計712億1400万(債務負担行為計297億9000万)

生活の支援	計2632万
被災住宅再建資金の借入れ利子相当額を助成	1355万
被災者の心のケアで専門家派遣	723万
「県生活支援ささえあいセンター(仮称)」による市町村支援	553万
産業への支援	計152億6000万
グループ補助金による中小企業の施設復旧	52億8300万
中小企業の事業再建	5億2500万
商店街の施設復旧	2025万
被災農作物の種苗、農業資材などの購入	1827万
農地・農業用施設の復旧	57億1000万
園芸施設・農業用機械の復旧	24億500万
農業者の営農資金借入れを無利子化(債務負担行為)	963万
キノコ生産施設の復旧	12億9800万
インフラ・県施設の復旧	計559億2700万
道路、河川の復旧	416億1000万(同154億1200万)
林道などの復旧	29億2300万
グリーンピア千曲などの復旧	96億300万(同143億6800万)
県総合リハビリテーションセンターの復旧	7億6500万

台風19号の被害額(円、11月21日時点)

農業関係合計	588億7200万
農作物・樹体被害	16億6000万
生産施設など	28億2600万
農地・農業用施設	542億2600万
農業集落排水施設	1億6000万
林業関係(山腹崩壊や土砂流出・林道)	38億8100万
公共土木施設(河川・砂防・道路)	621億3700万
都市施設(下水道・公園)	404億800万
商工業関係	679億4200万
学校施設	43億5700万
社会福祉(高齢者、障害者、保育施設など)	50億7100万
医療施設	7億7400万
自然公園	4200万
上水道	13億100万
浄化槽	200万
廃棄物処理施設	7800万
公営住宅(県営と市町村営)	13億6500万
警察施設	2億3200万
被害総額	2464億6100万

「ピーク」(長野市)は、点検により一部施設の被害が比較的軽いことが分かった。

県災害対策本部によると被害額は調査中で、農業関係などがさらに膨らむ見込み。

河川事務所(長野市)内に新設した。被災箇所を早期復旧や流域整備の検討を担う。

同出張所は北信地方整備局所属の職員5人を中心に、県外の河川事務所からの派遣で構成。常時10〜15人で職務に当たる。決壊した長野市穂保の千曲川堤防の本格復旧の他、千曲川と夜間瀬川の県管理区間計5カ所を県に代わって復旧を進める。今後の洪水に備えた流域全体の整備も検討。出張所の設置期間は未定。

同整備局の吉岡幹夫局長は「開所式で「地域の期待は大きい。一日も早い復旧を目指して、全力で取り組んでほしい」と職員に呼び掛けた。

千曲川早期復旧 「出張所」を新設

国土交通省北信地方整備局(新潟市)は22日、台風19号豪雨災害で被災した千曲川の早期復旧を目指す「千曲川緊急治水対策出張所」を千曲川

気候変動踏まえ 治水対策を議論

国土交通省は22日、気候変動に伴い頻発する豪雨災害への対策を検討するため、社会資本整備審議会小委員会の初会合を同省で開いた。県内をはじめ各地で河川が氾濫、同時多発的に浸水被害が発生し、情報発信面などで課題を議論。来年度以降に答申をまとめる予定だ。

赤羽一嘉国交相は台風19号で大きな被害が出た後、気候変動を踏まえた治水対策の在り方について同審議会に諮問。雨量の増加や海面水位の上昇、人口減少や高齢化といった社会構造の変化を背景に、治水対策やまちづくりの在り方、流域全体での備えなどを小委員会でも議論することになった。

赤羽一嘉国交相は「大臣代わり 災害増えた」

赤羽一嘉国交相は22日、省内で開かれた社会資本整備審議会小委員会会場です。出席者に対し「大臣が代わったら災害が増えたなんて言われてすみません。反省しております」と述べた。議事が始まる前の雑談の中で発言した。

赤羽一嘉国交相は台風19号で大きな被害が出た後、気候変動を踏まえた治水対策の在り方について同審議会に諮問。雨量の増加や海面水位の上昇、人口減少や高齢化といった社会構造の変化を背景に、治水対策やまちづくりの在り方、流域全体での備えなどを小委員会でも議論することになった。

真備から愛と元気を 一緒に復興へと前に

台風19号で被災した長野市の小中学校に、県内外の学校から寄せ書きや義援金などが届いている。豊野中には昨夏の西日本豪雨で被災した岡山県倉敷市真備町の真備東中から、東北中には同じ校名を縁に青森県東北町の東北中などから送られてきた。同年代ならではの言葉や方法で、励ましの輪が広がっている。



真備東中から豊野中に届いた寄せ書き。校舎階段の壁に張り出している。22日午後1時15分、長野市

千曲川氾濫

長野の被災校 励ましの輪

県内外から寄せ書きや義援金

「真備町から愛と元気をおくります」「私たちと一緒に復興へと前に進んでいきましょう」。カラフルなペンで書かれたメッセージが豊野中の校舎階段の壁などに並ぶ。その一つを寄せた真備東中は豪雨で校舎1階が浸水、現在も被災を免れた2階以上とプレハブ校舎で授業を受けている。生徒たちは昨年の被災後に寄せられた全国からの励ましに助けられたといい、今回は1年生全122人が書いた。

豊野中は1階が水に漬かり、生徒は現在2階以上で過ごす。仮設校舎建設が進む。寄せ書きは長野市の若槻小など県内外から寄せられた。自宅が約2階浸水したという豊野中生徒会長の池田恵太さん(15)は3年間は「いろいろな人に支えられている。学校に笑顔があふれるようにしたい」。

青森県の東北中生徒会長の岡山隆真さん(15)は同名の中学の被災に驚き、生徒会での支援を決めた。全校朝会で被害の報道を紹介し、募金約11万6千円を集めた。全校2022人の集合写真と寄せ書きも送った。岡山さんは「同じ仲間。一日も早く元の生活に戻ってほしい」と願う。

受け取った長野市の東北中には、青森、山梨県などの学校からも掃除に使うタオルなど多数の支援物資が集まった。生徒会副会長の3年渡辺沙菜さん(15)は「たくさん応援をもらっていると実感する。励みにしたい」と感謝している。

長野市内では他に、長沼小宛てにも寄せ書きなどが届いている。

しのの鉄道の「顔」復活 観光列車ろくもん 運行再開



運行を再開した観光列車「ろくもん」。停車中には乗客が記念撮影していた。22日午前11時44分、上田駅

台風19号の影響で運休が続いていたしのの鉄道(上田市)の観光列車「ろくもん」が22日、定期運行を再開した。10月12日に運行して以来、41日ぶりに「顔」の復活を喜んだ。ホームに長野行き「ろくもん」が到着し、乗客が降り立った。駅員らは、地元ゆかりの戦国武将真田氏の家紋「六文銭」入りの陣羽織を身につけての記念撮影を勧めた。これに応じた奈良県の自営業金田昌浩さん(47)は妻亜矢子さん(39)とともに新婚旅行中。「台風被害の大きさを聞き再開するが心配だった。車内のおもてなしや心配りに感激した」と涙を拭いた。

東御市の田中駅では、近くの田中小学校6年生30人がホームで出迎え、合唱で歓迎。長野駅(長野市)では県のPRキャラクター「アルクマ」などが待ち受け、被災地への義援金も呼び掛けた。春日良太社長は「観光需要が戻るよう、ろくもんとともに役割を果たしていく」と述べた。